



大学スポーツに対する
早稲田大学の取り組み
— 早稲田アスリートプログラム (WAP) —

早稲田大学
競技スポーツセンター 所長
スポーツ科学学術院 教授
土屋 純



早稲田大学におけるスポーツ

- 1882年東京専門学校創立

「知育・徳育・体育の三者は相並行して進まざるべからずは、今更の問題にあらず」
(大隈重信)

- 1883年から「大運動会」を毎年開催(教員・学生が参加)
- 1897年東京専門学校体育部創設
- 1901年野球部公認
- 1902年早稲田大学と改称、体育部創設一庭球・端艇(漕艇)・剣道・柔道・弓道部公認
- 1952年体育局創設
- 2003年競技スポーツセンター設置
- 以来2016年現在までに44の部を公認



早稲田大学とオリンピック・パラリンピック

- オリンピック

 - 夏季大会

 - 選手 合計293名【学生173名、校友120】 成績 金8、銀19、銅19

 - 冬季大会

 - 選手 合計97名【学生38名、校友59名】 成績 金6、銀2

- パラリンピック

 - 河合純一（水泳、6大会連続出場、金メダル5つを含め21のメダルを獲得）、佐藤真海（陸上）らが活躍。

 - 北京大会

 - 選手合計6名【学生3名、校友3名】 成績 金1、銀1、銅2

 - ロンドン大会

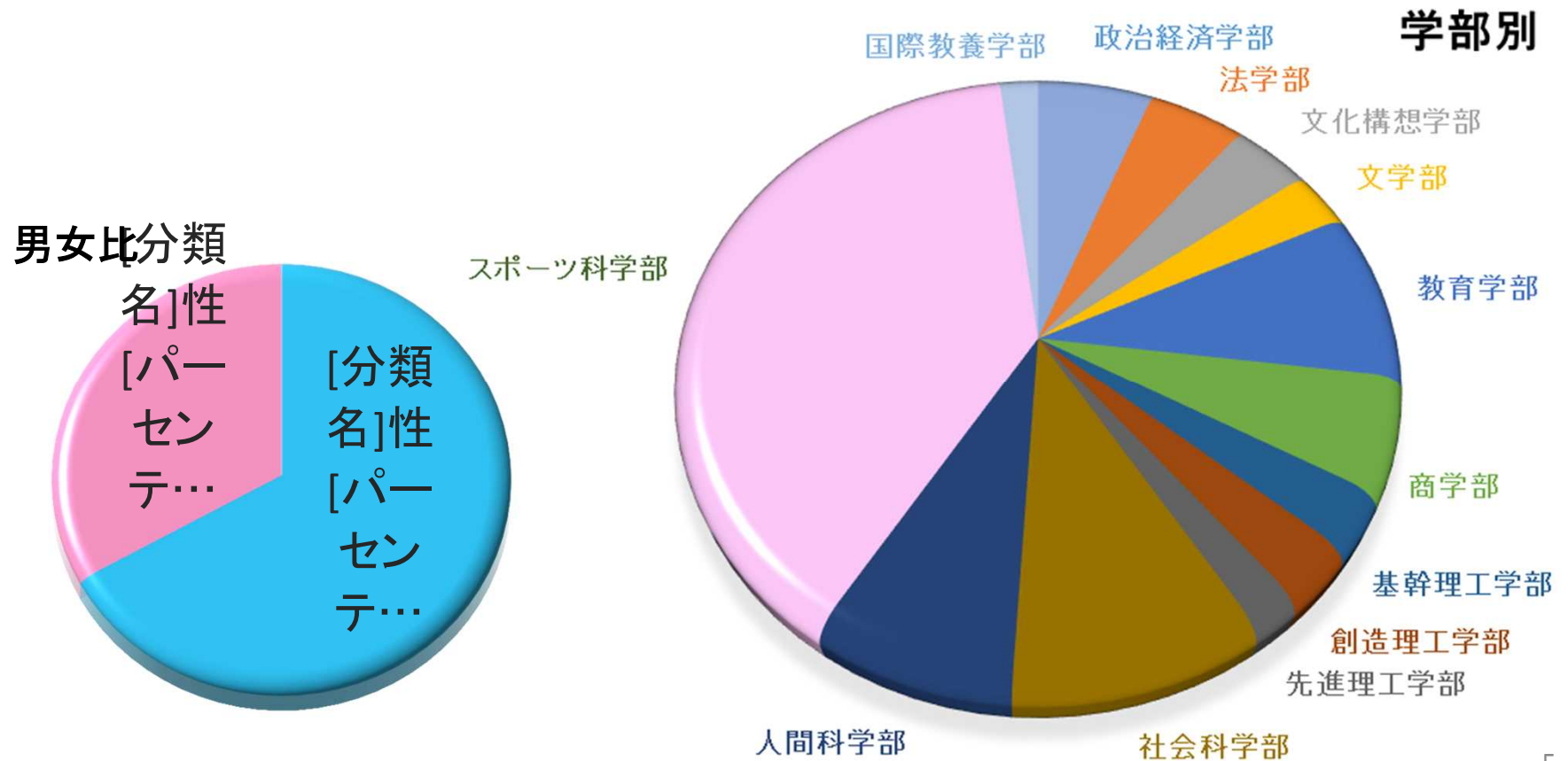
 - 選手 合計6名【校友6名】 成績 銅2



部員

体育各部44部で計約2,500名

(早稲田大学の全学部生は約44,000名, 5.7%)





体育各部の組織

競技スポーツセンター

部 長

(早稲田大学教授)

監 督

(多くが大学外所属)

コ ー チ

(多くが大学外所属)

部 員 (学生)



早稲田アスリートプログラム(WAP) とは

早稲田大学の体育各部全部員を対象として、
2014年度より競技スポーツセンターが提供する

1. 人格陶冶のための教育プログラム

2. 修学支援プログラム



なぜWAPか①

- 早稲田大学は、創立150周年(2032年)を見据えグローバルリーダー育成を主眼とする「WASEDA Vision 150」を策定
- Vision実現のために13の核心戦略、96のプロジェクトを配置
- プロジェクトの一つに「早稲田スポーツの新たな展開PJ」
- 「早稲田スポーツの新たな展開PJ」では、新たな大学スポーツのモデル提示、早稲田スポーツの価値の最大化を目標とした施策を検討



なぜWAPか②

- 「スポーツの価値は一スポーツに限ったことではないが—最終的にはそれをする人間の価値に依存する」との認識から、部員の人間的な価値を高める施策の必要性を確認
- 大学スポーツの新たなモデルを提示し、同様の取り組みが国内の多くの大学に広まり、日本におけるアスリートの価値、大学スポーツの価値、ひいてはスポーツの価値を今以上に高めることが目標



1. 人格陶冶のための教育プログラム

①アスリートとしての教養プログラム

②キャリア形成支援プログラム

③ボランティア・地域貢献活動支援プログラム

④国際交流支援プログラム



①アスリートとしての教養プログラム

大学を代表して戦うアスリートとして相応しい基本的な心構え、知識を学びながら、学生アスリートに必要なスキル、社会で求められるスキルを学ぶ。



①アスリートとしての教養プログラム

オリジナルテキストの作成・配布

2016年度より市販化、WAPを広く世に問う



**サッカー日本代表元監督
岡田武史さん推薦!**

「文武両道」。口で言うのはたやすいが、その実践は容易なことではない。限られた時間のなかで高い意識を持ち、この困難な課題に挑戦し続けること。学生スポーツの価値は、まさにそこにある。指導者、アスリートのみならず、スポーツを愛するすべての人に本書を推薦したい。



早稲田大学競技スポーツセンター

Contents	<p>出版にあたって 007</p> <p>早稲田アスリートプログラムに期待すること 009</p>	<p>Section 2 早稲田大学体育各部の存在意義と部員に期待すること 039</p> <p>体育各部の組織・支援体制 040</p> <p>体育各部部員に期待すること-文武両道 045</p> <p>体育各部の部長のしごと 047</p> <p>スポーツと社会貢献・地域交流 049</p> <p>WAP ボランティア活動の取り組み 052</p> <p>Column 1 スポーツの価値を伝える 056</p> <p>Column 2 稲門体育会と体育各部 060</p> <p>Column 3 アスリート部の社会貢献担当として 062</p>	<p>Section 5 キャリア形成 107</p> <p>指導者としてのキャリア 108</p> <p>人生設計・セカンドキャリア 112</p> <p>Column 1 早稲田精神からの刻印 114</p> <p>Column 2 大学でのスポーツ活動で身につける「人間力」 117</p> <p>Column 3 自由な空に憧れて 119</p> <p>Column 4 アスリートは社会のリーダーに 122</p> <p>Column 5 絆 126</p> <p>Column 6 早稲田から世界へ 128</p> <p>早稲田大学の就職支援・教員就職支援 130</p>
	<p>Section 1 早稲田大学と早稲田スポーツの歴史 013</p> <p>大隈重信と早稲田大学 014</p> <p>近代スポーツ史の中の早稲田 017</p> <p>早慶戦 020</p> <p>オリンピックとパラリンピック 023</p> <p>Column 1 安部磯雄と早稲田大学 025</p> <p>Column 2 早稲田から世界へ—先駆者の人、織田幹雄— 026</p> <p>Column 3 オリンピックメダル獲得までの道のり 028</p> <p>Column 4 パラリンピックでのメダル獲得を目標に 032</p> <p>早稲田大学スポーツ年表 032</p> <p>オリンピック・パラリンピックメダリスト 034</p> <p>Column 1 「この一球」 036</p> <p>Column 2 ラグビー-早明戦～選手の旧国立競技場～ 038</p>	<p>Section 3 早稲田スポーツ体験者として必要な知識とスキル 063</p> <p>スポーツと人間形成 064</p> <p>スポーツマンシップ 066</p> <p>リーダーシップ 069</p> <p>目標設定と行動計画 072</p> <p>ストレスマネジメント 075</p> <p>チームマネジメント 077</p> <p>コミュニケーション 080</p> <p>学生アスリートのメンタルヘルス 083</p> <p>Column 1 当たり前のことを当たり前/WAP 褒賞者の言葉 085</p>	<p>Section 7 アスリートのメディカルケア 171</p> <p>7-1 内科的急性障害とその対策</p> <p>心臓蘇生法 172</p> <p>熱中症 175</p> <p>運動後に赤褐色の尿が出たとき 178</p> <p>運動誘発性喘息 180</p> <p>過換気症候群 182</p> <p>スポーツと不整脈 185</p> <p>7-2 内科的慢性障害とその対策</p> <p>オーバートレーニング症候群 188</p> <p>スポーツ選手に多い貧血 190</p> <p>運動性無月経 193</p> <p>肝機能障害 195</p> <p>バーンアウト症候群 197</p> <p>7-3 外科的急性傷害とその対策</p> <p>RICE処理 199</p> <p>脳震盪・意識障害 201</p> <p>骨折 204</p> <p>脱臼 207</p> <p>捻挫 209</p> <p>肉離れ 212</p> <p>創処置 215</p> <p>腹部臓器の外傷 217</p> <p>7-4 外科的慢性障害とその対策</p> <p>疲労骨折・シンスプリント 220</p> <p>腰痛と予防対策 222</p> <p>その他</p> <p>潜水反射 224</p> <p>早稲田大学スポーツ医科学クリニック 226</p>



①アスリートとしての教養プログラム

テキストをもとにした対面式の講義や
オンデマンドコンテンツの配信

The screenshot shows the Course N@vi web interface. The main content area displays a list of lecture topics for the '早稲田アスリートプログラム' (Waseda Athlete Program). The interface includes a navigation menu, a search bar, and a list of lecture items with details such as the instructor's name, the lecture title, and the duration.

講義名	再生時間	担当教員	受講期間
巻頭		競技スポーツセンター	講義期間:2014/05/09 00:00~2023/03/31 23:59
早稲田アスリートプログラム(WAP)について	00:05:18	川口 浩	2014/05/09 00:00~2023/03/31 23:59
第1章 早稲田大学と早稲田スポーツの歴史		競技スポーツセンター	講義期間:2014/05/09 00:00~2023/03/31 23:59
大隈重信と早稲田大学	00:17:44	川口 浩	2014/05/09 00:00~2023/03/31 23:59
近代スポーツ史の中の早稲田	00:18:49	石井 昌幸	2014/05/09 00:00~2023/03/31 23:59
早慶戦	00:18:27	川口 浩	2014/05/09 00:00~2023/03/31 23:59
第2章 早稲田大学体育各部の存在意義と部員に期待すること		競技スポーツセンター	講義期間:2014/05/09 00:00~2023/03/31 23:59
体育各部への支援体制	00:05:28	土屋 純	2014/05/09 00:00~2023/03/31 23:59
体育各部部員に期待すること - 文武両道 -	00:43:02	土屋 純	2014/05/09 00:00~2023/03/31 23:59
スポーツと社会貢献・地域交流	00:11:38	紙屋 敦之	2014/05/09 00:00~2023/03/31 23:59
第3章 早稲田スポーツ体験者として必要な知識とスキル		競技スポーツセンター	講義期間:2014/05/09 00:00~2023/03/31 23:59 非表示
スポーツと人間形成	作成中	友添 秀則	2014/05/09 00:00~2023/03/31 23:59

早稲田アスリートプログラム 講義

—体育各部部員に期待すること—

競技スポーツセンター 副所長
スポーツ科学術院 教授
土屋 純



①アスリートとしての教養プログラム

講演

社会で活躍されている方々に、学生時代に何をなすべきか、それが将来にどうつながるのかをお話しいただく



刈屋富士雄氏
(NHKエグゼクティブアナウンサー・解説主幹)
講演会





①アスリートとしての教養プログラム

セミナー

例) 代表委員(各部主将主務)研修会



↑ 参加型講演

「チームの心を一つにする～言葉が力を引き出す～」

講師: 今泉 清 氏

(1991年人間科学部卒。2007年大学院公共経営研究科修了。

ラグビー蹴球部OB。ラグビー元日本代表)



↑

「AED体験研修」

講師: 牛込消防署



②キャリア形成支援プログラム

在学中から卒業後（競技引退後）の自身の姿について深く考える機会を作る。

教養プログラムに加え、競技スポーツセンター独自、あるいは学内キャリアセンターと連携して各種プログラムを提供。



②キャリア形成支援プログラム

本学キャリアセンターの協力のもと、下記を開催

- ・アスリートのためのキャリア形成支援セミナー
 - ・合同企業説明会（体育各部部員限定）
 - ・合同企業説明会（全学生対象）
 - ・インターンシップ（体育各部部員限定）



②キャリア形成支援プログラム

例) アスリートのためのキャリア形成支援セミナー

【日時】2015年12月7日(月)18:30-20:40

【場所】早稲田大学早稲田キャンパス14号館201教室

【対象】体育各部3年生限定

【定員】600名

【内容】

第1部:講演「なぜ、君は就活をしないといけないのか」

【講師】キャリアディベロップメントアドバイザー・採用コンサルタント 大塩茂樹氏

第2部:「体育各部部員のための就職ガイダンス」

【講師】新美義兼氏(早稲田大学キャリアセンター)

第3部:内定者による先輩体験談セミナー

【ゲストスピーカー】金融・メーカー等に内定済の体育各部4年生



③ ボランティア・地域貢献活動支援プログラム

社会貢献活動に取り組み、豊かな人間性を育てる。

競技スポーツセンターが社会のニーズを把握し体育各部に提供する。



③ ボランティア・地域貢献活動支援プログラム

a) 東日本大震災復興支援

- 福島、宮城、岩手の3県に部員を派遣
- 活動内容は、スポーツ教室開催、競技会開催等

2014年度は25の活動にのべ393名の部員が参加
2015年度は25の活動にのべ379名の部員が参加





③ ボランティア・地域貢献活動支援プログラム

b) 障がい者スポーツ・障がい者支援

障がい者スポーツ団体、障がい者支援団体の活動をサポート
2014年度は35の活動にのべ209名の部員が参加
2015年度は80の活動にのべ715名の部員が参加





③ ボランティア・地域貢献活動支援プログラム

c) 各種スポーツ教室開催・支援

例) 早稲田スポーツフェスタin東伏見

体育各部の代表により構成される実行委員会が主体となって、部員約800名が参加し、さまざまなスポーツ体験プログラムを計画・提供
(4回目の2015年度は約5500名の来場者)





④国際交流支援プログラム

韓国・高麗大学との定期戦(野球・ラグビー・サッカー・アイスホッケー・バスケットボール)、海外の提携大学・研究所との交流(水泳、スキー、米式蹴球ほか)を通して、競技力の向上を図るとともに国際感覚と広い視野を養う。



高麗大学との交流戦(野球部)



ボカティ・スポーツ研究所(フィンランド)
スノートンネルでのトレーニング(スキー部)



南カリフォルニア大学との技術交流
(米式蹴球部)



オックスフォード・ケンブリッジ大学
合同チームとの対校試合(ボクシング部)



2. 修学支援プログラム

①学業情報管理

②アカデミックアドバイザーの配置

③褒賞



①学業情報管理

競技スポーツセンターが全部員の学業情報(登録単位数・取得単位数・GPA)を学期ごとに把握し、所属する学部・体育各部部長と連携して、部員が学業成績不良者となることを未然に防ぎ、原則として標準修業年限で卒業できるよう指導する。



①学業情報管理

各学期末に部長に対して部員の学業成績を報告

各学期末に取得すべき単位を設定



a) 要指導単位

b) 最低基準単位



①学業情報管理

a) 要指導単位

各学期の要指導単位を下回った部員については、部長に対する学業成績報告の際にその旨をあわせて報告し、特段の指導を依頼する。

学年	春学期終了時	秋学期終了時
1年	14単位	28単位
2年	42単位	58単位
3年	74単位	92単位
4年	108単位	

(例: 卒業単位が124単位の学部学生部員)



①学業情報管理

b) 最低基準単位

- 基準単位を初めて下回った学期に警告
- 基準単位を連続する2学期において下回った場合、
i) 練習の制限、ii) 対外試合の出場停止
といった措置を部長に依頼

学年	春学期終了時	秋学期終了時
1年	12単位	24単位
2年	38単位	52単位
3年	68単位	84単位
4年	100単位	

(例: 卒業単位が124単位の学部学生部員)



②アカデミックアドバイザーの配置

各部部長のもと、部員の修学支援を行うために、単位取得のアドバイスや学習面のサポートを行うアカデミックアドバイザーを配置する。

アカデミックアドバイザーは、大学院生、職員、教員を想定。



③褒賞

- **最優秀学業成績団体賞**
部員の平均GPAが最も高い部に与える。
- **最優秀学業成績個人賞**
4年で卒業する部員のうち最も高いGPAを獲得した者に与える。
- **優秀学業成績個人賞**
4年で卒業する部員のうち上位10%のGPAを獲得した者に与える。
- **年間最優秀学業成績個人賞**
3年生以下の学年ごとに、当該年度履修科目において部員のうち最も高いGPAを獲得した者に与える。
- **年間優秀学業成績個人賞**
3年生以下の学年ごとに、当該年度履修科目において部員のうち上位10%のGPAを獲得した者に与える。





年次目標

1年生

- 学業と部活動を両立する生活習慣を確立する。
- 早稲田大学と早稲田スポーツの歴史を理解し、大学を代表してプレーする誇りと自覚を持つ。

2年生

- 上級生としての自覚と責任を持って後輩を指導するとともに、自立したアスリートになる。
- 社会を構成する一員としての高いモラルを持ち、早稲田アスリートにふさわしい言動ができる。

3年生

- 課題解決についての明確なビジョンを持ち、チームの中で自分を活かす。
- 社会において自ら率先して行動できる能力を身につける。

4年生

- 最上級生としてのリーダーシップを発揮し、チームを目標達成に導く。
- 文武両道の実践により培われた人間力で社会に貢献できる人材となる。



最後に・・・

競技スポーツでは、優れた競技成績を収めるために努力することは当然ですが、大学という教育機関で行われるスポーツである以上、そこには優れた人間の育成というご期待があり、われわれはそのご期待にお応えし、社会に貢献する人材を育成する義務があると考えております。



「早稲田スポーツの価値の最大化」という目標から生まれたWAPではありますが、これが一つのモデルとなり、同様の取り組みが国内の多くの大学に広まり、アスリートの価値、大学スポーツの価値、ひいてはスポーツの価値が、今以上に高まることを強く望んでおります。



とはいえ、始まったばかりのプログラムですので、多くの皆様方からのご意見、ご指導をいただきながら、より充実したプログラムへと育ててまいりたいと考えております。

今後ともご指導のほど、なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

本日はありがとうございました。